

# 樽池高原～蓮華温泉山行記録



樽池高原から天狗原の登りにて白馬岳を望む

日時:2016年6月2日～4日

メンバー:L田邊浩二、大和義孝(記録)

コースタイム:

## 6月2日(晴)

東京7:52—(新幹線はくたか553号)—9:30長野9:50—(アルピコバス)—11:25樽池高原11:35—(ゴンドラリフトイブ)—樽の森駅11:55～樽大門駅12:00—(ロープウェイ)—自然園駅12:05～12:15樽池ヒュッテ(泊)

(自然園散策)出入口13:00～14:10モウセン池14:15～14:30展望湿原14:40～15:45出入口

## 6月3日(快晴)

樽池ヒュッテ7:15～9:00天狗原9:25～11:00乗鞍台地11:15～乗鞍岳頂上11:25～12:15白馬大池山荘13:00～14:15水場14:25～15:05天狗の庭15:15～16:05休憩16:10～17:15蓮華温泉ロッジ(泊)

## 6月4日(晴)

蓮華温泉ロッジ 8:50—(宿の車)—9:50 平岩駅 11:07—11:30 南小谷 12:07—14:24  
松本 14:49— (特急スーパーあずさ22号)—16:50 八王子 16:59—17:00 横浜駅

## 6月2日(晴)

東京駅の北陸新幹線ホーム 22 番線で田邊さんと待ち合わせ、自由席の車両に乗る、乗客は10人程度で貸切気分、列車は定刻通り 7:52 に出発する。天気は晴れで車窓の景色が素晴らしい、1.5時間程で長野駅に着く。東口のバス停からアルピコバス 梅池高原行の急行バスに乗る、乗客は我々を含め3人である。バスは定刻通り出発し、長野駅の西方向に延びる犀川沿いの大町街道を走る、白馬駅からは 1~2 人の乗客の乗り降りがあり、11:25 終点の梅池高原バス停に着く。バス停から 2,3 分の所にゴンドラリフトタイプの乗り場があり、待ち時間なく乗り込む、ゴンドラは新緑に蒸せる森の上をいき遠くに白馬連峰をのぞめる約 20 分間の乗車で 梅の森駅に着く、次にロープウェイ 駅 梅大門駅まで 5 分程歩く、ロープウェイは 20 分ごとに出ており、ちょうど 12:00 発に間に合う、乗客は 10 人程度である、12:05 に上部の自然園駅に着き、そこから登り徒歩 10 分程で 梅池ヒュッテ、村営 梅池山荘、ビジタセンタが並ぶ所に着く時刻は 12:15 である。今日はここ 梅池ヒュッテが宿である。



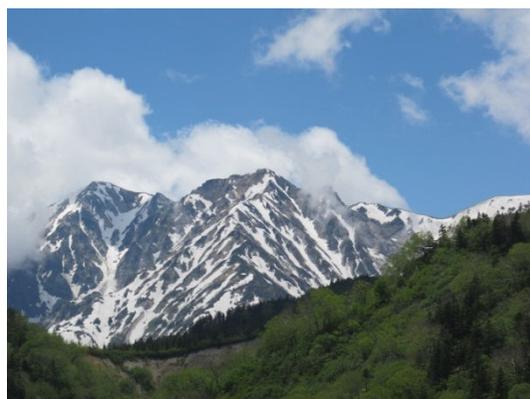
新緑に咽ぶ森の上をゴンドラが通る



ゴンドラ



ロープウェイ



ロープウェイからの白馬槍と杓子岳

樽池ヒュッテの食堂で弁当を食べさせてもらい一服した後ザックを預け、自然園散策に出かける、自然園はビジタセンタから入り有料で一人 300 円である。自然園に出ると一面水芭蕉の湿原である。本来なら水芭蕉が綺麗に咲き誇っている筈が今年は雪解けが早く約一ヶ月前に咲き始め最近の霜で花が枯れてしまったとの事、しかし水芭蕉の湿原の向うに白馬岳、杓子岳が見え素晴らしい景色である。自然園は標高 1900m~2000mにひろがり日本有数の高層湿原でそれぞれ特徴ある4つの湿原がある、一周約 5.5kmの遊歩道と



樽池自然園遊歩道起点



湿原の水芭蕉の群生



水芭蕉



リュウキンカ



湿原の中の木道を行く



モウセン池休憩所

木道が整備されているが一部残雪があり、通行止めがあった、我々は最西端にある展望湿原まで行き白馬大雪渓を望む事にした、自然園を散策している人は10人程度で時々すれ違った、入口から約一時間位で綺麗で小さなモウセン池のそばの休憩所に着き一休みする、ここからは少しだらだらとした小さな林の中の登りになり、それを過ぎると下りとなり、前方正面に大雪渓が見え残雪が少しある展望湿原に着く、モウセン池から約15分である。展望は右から小蓮華岳、白馬岳、白馬大雪渓、杓子岳、白馬槍ヶ岳と素晴らしい景



**展望湿原からの白馬大雪渓**



**白馬大雪渓をバックに田邊さん**



**ショウジョウバカマ**



**杓池ヒュウッテ記念館**

色である、遠くには鹿島槍が見える。足元にはショウジョバカマ可憐な花を咲かせていた。記念写真を撮り帰途に着く、展望湿原から少し登ると小高い丘になり自然園全体が見渡せる、遠くに赤い屋根の杓池ヒュウッテ記念館が見える。約一時間程で自然園入口のビジタセンタに戻る、時刻は15:45である。

宿に帰り、2階の部屋に入る、部屋は8人部屋で左右に 2段のベッドが並ぶ、部屋は綺麗で布団も綺麗で快適である、当初個室で料金は 10,200 円と言う事であったが予約時何も言わないと自動的に個室になるとの事、田邊さんが交渉し大部屋にし料金は 9,100 円にしてもらった。この大部屋に寝る人は我々以外は写真を撮りに来た 1 人だけであった。夕食は 18:00 から、明日の朝食は 7:00 からとの事、朝食はできればもう少し早くできない



ヒュッテの前で記念写真



夕食のメニュー

か交渉した、当日の泊り客は我々を含め計4人で管理人が他の2人に交渉し了解を得6:40 朝食にしてもらった。夕食まで時間が有るので風呂に入る風呂は温泉ではないが綺麗で気持ちが良い。湯船は4,5人が同時に入れる大きさである。夕食はタラの唐揚げ黒酢風あんかけ、蒸鳥のバンバンジ風がメインディッシュのフランス料理風で大変美味しく山小屋の料理とは到底思えないものであった。8:30 頃就寝。

## 6月3日(快晴)



梅池ヒュッテ



左から白馬岳、小蓮華山、白馬乗鞍岳

5:30 に起床、同一部屋の写真を撮りに来た人はもういない、あとで聞くと3:30 に起きて写真を撮りに行ったとの事。部屋の向かい側に有る談話室から外を眺めると雲一つない快晴で、風景写真を撮る人には面白くない。談話室で水彩画を描いている人がいる、聞けば外に出て描いていたが寒くて絵の具が凍ってしまうので部屋の中で書いてるとの事。ガラス越しに写真を撮ったが旨く撮れず、カメラをいじくっている間に画像のサイズがL→Sに変わっているのを気づかずに居た、その為以後の写真は全てSサイズになってしまった。6:40 に朝食をとる、朝食は鮭の塩焼きがメインディッシュで美味しかった。

7:15 梅池ヒュッテを出発する、村営梅池山荘とビジタセンタに挟まれた道を山に向かって

進む、山道はオオシラビソの森の中をジグザクに登って行く割合歩き易い道である、カッコーの鳴き声が聞こえ、天気は快晴で寒くなく、暑くなく、快適に登る、たまに見る水たまりに



朝食メニュー看板



森を抜けると展望の良いガラガラの山道



雪解け水に沿って咲く水芭蕉は



天狗原の登り中腹からの杓子岳(右)、白馬槍



天狗原へ登る田邊さん



天狗原の標識の前で

氷が張っており今朝は氷点下まで気温が下がった様だ、45分程登ると開けた所に出、雪けの水が流れ水芭蕉が水の流れに沿って咲いている、一休みする。山道は次第に開けた所が多くなり所々に雪解けの水が流れ水芭蕉が咲いている、傾斜がゆるくなり台地状の天



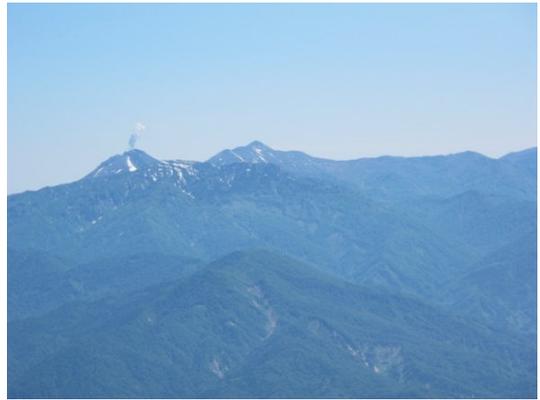
天狗原のはずれに有る祠



白馬乗鞍岳の雪渓を登る大和



雪渓を登り終えた田邊さん



遠くに噴煙を上げる新潟焼山

天狗原に着く、木道と休憩所が有る。天狗原の西の端は残雪に覆われた斜面が有りこを登れば白馬乗鞍岳である、雪渓には殆ど踏み跡が残っておらず、軽アイゼンを付けブッシュあるいは岩沿いに左斜めに雪渓を登る、軽アイゼンの為雪を蹴り込むアイゼンが取れそうになり、だましまし登る、三分の二程登り、後は雪渓を直登する。雪渓を登り終わると榛松に覆われた台地に出る、そこで休憩していると、下って来るカップルに会う、山に入って



白馬乗鞍岳のケルン



白馬大池と雪倉岳

人に会うのは初めてである。聞けば昨日は大雪渓を登り白馬山荘付近で泊り、  
下って来たとの事、乗鞍岳は一面平らでどこが頂上かわからないが、大きなケルンが有り



雪渓をトラバースする田邊さん



雪渓が無くなると歩き難い夏道が出る

頂上を示していた、ケルンから白馬大池に向かって大きい岩だらけの歩き難い道を徐々に  
下って行く、池は半分雪で覆われている池の淵を右側にまわる、雪渓が池に雪崩込んで  
おり、約 100mぐらいを雪渓上をトラバースすると白馬大池山荘に着く、山荘は戸が閉まっ



白馬大池山荘とテント



山荘の前で



大池山荘付近からの展望、雪倉岳、朝日岳



道を探した雪渓

ており閉館している、山荘の周りはほとんど残雪はなく、テント場も雪がない、そこに一人用のテントが一張あった、ここで昼飯を食べていると雷鳥坂方面から男一人、女二人のパーティが下って来て一休みするとすぐに乗鞍岳方面にさった、我々は45分程休んだ後、山荘の北側に大きく残る雪渓を八本爪アイゼンを付け蓮華温泉に向かって山の中腹をトラバース気味に下る、10分程歩くと雪渓は無くなり、夏道が出、アイゼンを外す、また暫くすると雪渓が出てアイゼンを付けトラバースする、アイゼンの着脱を2,3回繰り返すと大きな雪渓に出会う、踏み跡が無数にあり何処を渡れば良いか分からず雪渓を2,3回上り下りし20分程ルートを探った、すると略水平方向の雪渓の切れた向う側に夏道らしきものを発見した、雪渓は雪庇状になっているので水平にはトラバースできず、一旦7,8m直上した後斜めに下り夏道に出る、ここでアイゼンを外し、以後は付けることはなかった、大きなダケカンバの森があり、暫くすると雪解けの水が流れている水場に着き一休み、峰を2,3回越すと視界の良い天狗の庭に出る。天狗の庭は風が強くなるためかカラマツの木が曲がって



天狗ノ庭



天狗ノ庭からジグザグに峰に沿って下る

いる。ここからは峰に沿ってジグザグの道を下る、天狗ノ庭から1時間半ほど下った16:30頃下から登ってくる人が見えると「田邊さんですか」と声をかけてきた

「はいそうです」と返事を返す、蓮華温泉ロッジの人が心配して迎えに来てくれたのだった、



二輪草



イワカガミ

蓮華温泉ロッジに予約して有ったのでロッジの人は着くのが遅いので、梅池ヒュッテに電話し何時ごろ発ったか聞き、迎えに来てくれたそう。なんて親切なんだろう、感謝、感謝である。ロッジの人は安心して先に下って行った、我々も気持ちに余裕が出て二輪草、イ



シラネアオイ

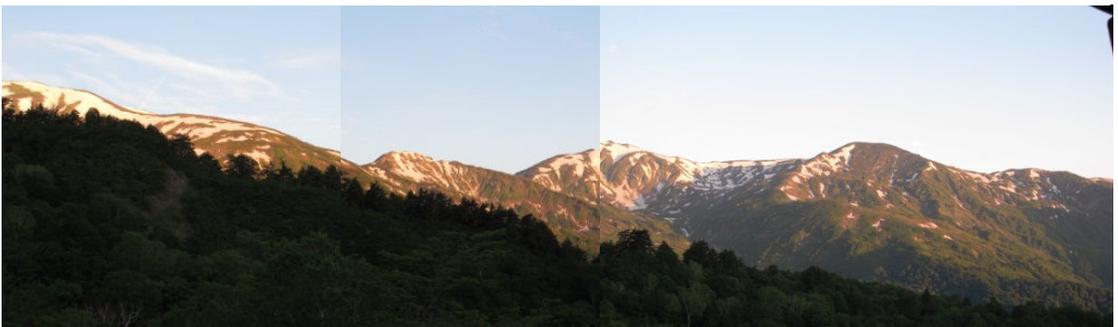


キヌガサソウ

ワカガミ、フキノトウ等の花の写真を撮りながら下り、ロッジに 17:15 に着く。ロッジのお客さんは我々の他に4,5人のグループ(毎年この時期に来る常連さん)だけである。

我々の部屋は2階の朝日岳等が良く見える部屋である、早速温泉にゆっくり入り汗を流す、温泉は乳白色の源泉かけ流しの一度に20人位が入れる温泉である、上がり湯は蛇口跡が有るだけで今は使用できない、18:30 頃夕食を摂る、根曲り筍の焼いたもの、山菜の天ぷらなど山小屋らしい料理である。この生活は梅池ヒュッテと違い一般的な山小屋と同じで消灯時間があり面食らう。窓からの星空が綺麗である。20:00頃就寝

## 6月4日(晴)



部屋の窓から見た朝焼け 右から長梅山、朝日岳、赤男山、雪倉岳

5:30起床、今日も天気は上々、部屋の窓越しに朝日に輝く朝日岳が見える、朝食前に露天風呂めぐりに行く、ロッジを出て別館を回り込むと露天風呂案内の掲示板が有る、案

内に従い緩い登り坂を10分程登ると、林の中の「三国一ノ湯」に着く、しかし湯が無く空になっている、ロッジの人の話では新人が湯船を掃除したので清掃後、湯をためるのを忘れてしまったとの事、そこから5分程登ると開けた「仙気ノ湯」になる、その周りは火山の噴気で荒涼としている、そこから急な階段状



白馬岳蓮華温泉ロッジ



最高所に有る薬師ノ湯



薬師ノ湯から見た仙気ノ湯

の道を3,4分登ると「薬師ノ湯」である、ここで服を脱ぎ5～10分程温泉に浸る、展望が良く遠くに朝日岳、長杵山が臨める。次に元来た道に戻り「仙気ノ湯」に入る、泉質は「薬師ノ湯」と変わらない、荒涼と開けた展望の良い温泉にいつまでも入って居たい気分であるが程々にして、戻るが、元来た道から左に折れ灌木に覆われた「黄金ノ湯」を見てロッジに戻った時刻は7:15である。



仙気ノ湯



黄金ノ湯

7:30に朝食を摂る。ロッジの人が帰りはどうするか尋ねてきた、タクシーはビワ平まで入る(ゲートが有り、今はそれより上部は蓮華温泉関係者しか入れない)、そこまでは約10km

有り通常はロッジの車で送るとの事だったが今日は平岩駅までだったらロッジの車で送って呉れることになった。

5人グループのお客さんはミニバンに、我々は軽に乗り、8:50 に一緒に山を下る、ピワ平までの間で根曲り竹の筍を採る 14,5 人の人に会う、山菜取りの人はピワ平に車を置きそこから徒歩で来て採っているそうである。5人グループのお客さんはピワ平に車が置いてありミニバンはそこまです戻っていた、我々の車の運転手は、用が有り糸魚川の実家迄帰るのでその途中の平岩駅まで乗せて呉れたのである。平岩駅に蓮華温泉からちょうど1時間で9:50 に着いた。平岩駅から南小谷行きの列車の時刻は 11:07 で約1時間 20 分程待たなければならない、もしかしたら南小谷行のバスが有るかもしれないと思いバス停に行って時刻表を調べたら今日は土曜日なのでバスは運休だった、仕方がないので写真を撮ったりして待つ、平岩駅から南方面を眺めると山の中腹に白い白馬大仏が見える。南小谷までは1両の気動車である、南小谷駅で40分程待ち松本行の電車に乗る、松本駅のホームで昼食のそばを食べる、松本発 14:49 の「スーパーあずさ」で八王子まで行き、八王子から横浜線に乗り換え横浜駅に 17:00 頃着き解散する。



平岩駅



平岩駅ホームから見た白馬大仏